

# 法人中期計画の作成「大阪府柏原市周辺地域における、子どもから大人までの一貫支援の基盤確立に向けて」

社会福祉法人 なにわの里（大阪府）

住 所 大阪府羽曳野市誉田 1772-1  
TEL 072-957-0470  
URL <http://naniwanosato.jp/index.html>

経 営 理 念 中期計画における経営戦略テーマ  
「Compact（高密度） & Consistent（一貫）」

事 業 内 容  
及 び 定 員

- ・障害者支援施設（40名）1ヶ所
- ・生活介護施設（従たる事業所と合わせて60名）1ヶ所
- ・生活介護施設従たる事業所（本体施設と合わせて60名）1ヶ所
- ・グループホーム（9名）2ヶ所
- ・児童発支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援事業（10名）1ヶ所
- ・相談支援事業 1ヶ所

収 入  
(法人全体)  
平成26年度決算

① 社会福祉事業	398,492,295 円
② 公益事業	0 円
③ 収益事業	0 円
合計	398,492,295 円

職 員 数  
(法人全体)

117名（非常勤含む）

当 面 す る  
経 営 課 題

- ・役員の高齢化
- ・スタッフの労働環境改善
- ・人材の確保、育成
- ・地元自治体との関係強化（広域での入所支援が中心）
- ・入所者、家族の高齢化
- ・事業拡大に向けた資金不足

**取り組みに  
着手した  
理由、背景**

社会福祉法人なにわの里は、1990年に我が子の居場所づくりのため、自閉症親の会のメンバーが中心になって設立され、50名定員の入所施設として事業を開始しました。関西一円から、地元地域では支援が困難な方が多数利用され、措置時代に、大阪府内で4ヶ所だけが指定を受けていた「強度行動障害指定施設」として、一法人一施設での運営を進めてきましたが、「後を絶たない関西一円からの切実な入所相談」「スタッフの疲弊」「人材確保困難」「市町村への権限移譲」「一法人一施設でやれることの限界」といった流れの中で、「児童発達支援事業」「放課後等デイサービス事業」「保育所等訪問支援事業」「児童相談支援事業」「その他、近隣大学等と連携した法人独自の無料支援事業」を展開し、自閉症スペクトラム障害のある本人・家族・関係機関への、児童期からの「密度の濃い個別の一貫支援」の推進を開始しました。

**取り組みの  
現時点  
での効果**

現在、児童通所系事業に100名近い方の利用があり（柏原市の受給者証発行数をほぼカバー）、保育所等訪問支援事業等を通しての各関係機関との連携も着実に進み、身近な地域での早期療育・一貫支援の土台が形成されつつあると実感している。



社会福祉法人なにわの里 中期経営計画  
(2015年4月～2019年3月)

# Compact & Consistent

～柏原市周辺地域における子どもから大人までの一貫支援の基盤確立に向けて～

主な内・外環境認識	2
なにわの里が目指す姿	3
目指す姿に近づくための基本戦略	4
各事業の展望・方向性	5
事業規模の推移目標	6
5年後の事業マップ(イメージ)	7
計画推進スケジュール	8



## 主な内・外環境認識

### 内部環境

- 事業関係者(入所者、家族、法人役員)の高齢化
- 地域ニーズの拡大に伴い、柏原市で児童・相談事業開始
- スタッフの業務負担増(入所者の重度・高齢化、入所・GH兼務での支援等)
- 入所・通所等、利用者の受入れスペースが不足

### 外部環境

- 労働人口の減少、介護・福祉人材不足
- 社会保障費の抑制、施設の報酬減
- 社会福祉法人改革、法人役員責任明確化、地域貢献活動・情報公開の義務化等
- 市町村への権限移譲、市町村が障害福祉計画を作成、事業認可等
- 障害者差別解消法の施行、発達障害児者支援・子育て支援の強化
- グループホーム消防法基準の厳格化



## なにわの里が目指すべき姿 (Compact & Consistent)

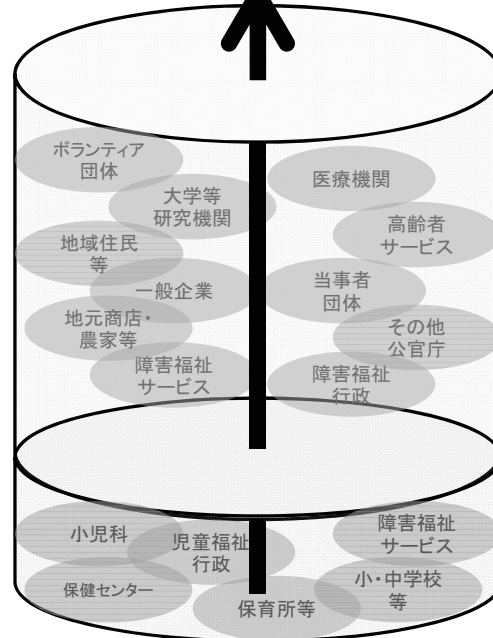
現在の大人の入所支援事業をベースとして、  
身近な地域で、子どもから大人まで一貫した地域全体で支え合う、支援体制を構築

成人期

人生の本番、  
社会参加・貢献支援

児童期

人生の土台づくり支援



当事者を中心に、早期支援・汎化支援・シームレスな支援を展開



## 目指す姿に近づく基本戦略

### Compact & Consistent

～柏原市周辺地域における子どもから大人までの一貫支援の基盤確立に向けて～

大阪府全域を対象とした大人の入所支援をベースとして



柏原市周辺を対象にした(Compact) 子どもから大人までの一貫支援(Consistent)

#### 何故、柏原市(Compact)か？

- 市町村への権限移譲が進み、今後は市町村との関係強化が重要となってくる
- 法人内事業の中で、柏原市在住の方の比率が約半数を占めている
- 相談、児童、通所、グループホーム等は既に柏原市内で事業を実施
- 広域では多数の利用者に高密度な一貫支援は困難
- 柏原市内の対象者であれば全てカバーし、一貫支援の輪を上げていける見込みあり
- 連携していく上で有効的な関係機関が多数あり

#### 何故、一貫支援(Consistent)か？

- 早期支援により、二次・三次障害を防ぎ、より前向きな支援へ
- 支援内容を、地域の関係機関で共有することにより、ご本人、家族の負担が軽減
- 常に地域ニーズを把握し、効率的、効果的な投資が可能に
- コンスタントな通所利用増による経営の安定化が図りやすい



## 一貫支援を推進するための各事業の展望・方向性

	主な課題事項	課題への取り組み
<b>成人支援課</b> ・入所 ・通所 ・GH > 支援環境の充実 > 通所支援の量・幅拡大	・通所スペース不足 ・障害支援区分低い方が通所できない ・通所送迎エリアが狭い ・GH等の消防法基準の厳格化 ・入所、GHの夜間体制の見直し	・既存施設を活用し通所スペースを確保 ・就労支援事業の開設(支援区分2以下) ・通所送迎エリアを拡大 ・移転も視野にGHの消防法基準に対応 ・入所、GH夜間体制の強化、 夜間支援体制充実のための府研修受講
<b>児童相談支援課</b> ・児童通所 ・保育所等訪問 ・相談支援 > 地域連携強化 > 家族支援強化	・通所、相談スペース不足 ・計画相談を全障害児者に実施 ・家族支援制度の不足 ・保育所、学校等との連携不足	・事業所の移転、スペースの確保 ・柏原市行政と連携し計画相談の拡大 ・一般相談の開始、ペアトレ実施等 ・保育所等訪問事業の着実な拡大
<b>総務課</b> > 人材確保・育成強化 > 社会福祉法人改革対応	・人材確保が困難 ・人材育成が不十分 ・社会福祉法人改革 ・今後、重要な市との関係が不十分	・採用活動強化 ・人事、給与、研修等システム改定 ・公益活動、情報公開強化 ・本部の柏原市移転



## 事業規模推移目標

